

本サンプルで提示されている体裁を概観し、手順を精読し、USAT大学 教育学部 論文審査委員会により規定された形式に基づいて論文を作成してください。

(論文の表紙は以下のようになります。表紙は1ページに収めます。)

USAT理工文科大学

(UNIVERSITY OF SCIENCE, ARTS AND TECHNOLOGY)

教育学 学士号 日本語教授学 梗概

(言語教授法に関する学術調査研究レポート)

氏名(フリガナ):

住所:

Email:

論文主題: _____ (ここには「言語教授法に関する考察」など、任意の主題を記入します。)

登録日: _____ 年 月 日 (ここには入学許可日を入力します)

専任担当教諭名: _____ 教諭 (ここにはUSAT理工文科大学によって割当てられた専任担当教諭名を入力します。)

本論文を作成する際、以下のページ設定にしてください。

余白: 左 2.5 cm
 右 2.5 cm
 上 2.5 cm
 下 2.5 cm
フォント: MS Pゴシック
文字サイズ: 本文12 pt(大見出しは20pt, 副見出しは16pt)
文字数と行数の指定: 標準の文字数を使う
段落の間隔: 行間1.5行
 段落前0行
 段落後0.5行
用紙サイズ: A4

(文字サイズは以下を参考にしてください。)

章見出しの大きさはこれです

副見出しの大きさはこれです

本文の大きさはこれです

1. 目次

目次全体を1ページに収めます。項目が多い場合、行間をつめます。目次の項目には、各教授法名または各見出し名とページ数を明記してください。目次は2ページ目となります。

2. はじめに

「はじめに」は1ページに収めます。ここには言語教授法の簡潔な紹介と幾つかの要点を、読者の関心を引き起こすような仕方で記述します。「はじめに」は3ページ目となります。

3. 言語教授法に関するレポート

「はじめに」とは別のページにします。学習した約25の言語教授法のうち10の教授法を選び、それぞれに関するレポートを書きます。各教授法に関して最低1ページ書く必要があります。1ページを超えれば2ページ目が数行であっても構いません。逆に、1ページに満たないものは無効となります。教授法ごとに改ページを行います。必ず教授法名が各ページの先頭に来るようにしてください。

レポートには以下のような点を含めることができますよう:

- この教授法の背後にある原則や研究成果。
- なぜこの教授法が教育ツールとして効果的であると感じたか？
- この教授法はどのレベルの学習者に最適か？初級？中級？上級？
- 教師はこの教授法をどのように授業に組み込めるか？
- 大教室において、また個人レッスンにおいてどのようにこの教授法を使えるか？
- この教授法は1つのレッスンの中で何分ぐらい割くのが最善か？なぜか？
- このメソッドはどれくらい頻繁に用いることができるか？なぜか？
- どの言語や文化圏の人に対してこの教授法は効果的か？なぜか？

4. 結論と推薦

言語教授法に関する考察レポートを「結論と推薦」で締めくくります。2ページ以内に収めます。1ページでも構いません。「結論と推薦」の部分では、問題提起の解決、質問の解答、結論、推薦などを記述します。

5.参考文献(教科書以外の文献を引照した場合のみ記入)

レポートを作成する際、教科書から自由に引照(引用または参照)することが出来、また教科書以外の文献を引照することもできます。教科書以外の文献からの適切な引照は成績に反映されます。その場合、引照元を明記する必要があります。引照元表示の仕方については、学士論文用「引照元表示に関する規定」をご覧ください。

6. 文法と誤字脱字

レポート作成において、文法上の間違いや誤字脱字は致命的であり、成績や評価にも直接影響します。レポート作成後、必ず誤字脱字や文法上の誤りをすべて訂正してください。MS-Wordの「スペルチェック」機能および「文章校正」機能を有効にして作業してください。赤や緑の下線が表示されたところは特に注意して、訂正の必要があるかどうか見極めます。引用を行う場合、明らかな誤字を除き修正する必要はありません。

注意:ここに記述された内容は、レポート筆記のために書かれた指示です。
最終的に提出するレポートにはこれらの記述を含めないでください。
レポートが完成したら、Emailでtutor@usatmts.jpへ送付してください。
いかなる印刷物やハードコピーも事務局に送らないでください。